

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-165656

(P2019-165656A)

(43) 公開日 令和1年10月3日(2019.10.3)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
AO 1 K 87/08 (2006.01)	AO 1 K 87/08 B	2 B 0 1 9
AO 1 K 87/06 (2006.01)	AO 1 K 87/06 B	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2018-55358 (P2018-55358)	(71) 出願人	000002439
(22) 出願日	平成30年3月22日 (2018. 3. 22)		株式会社シマノ
			大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地
		(74) 代理人	100120318
			弁理士 松田 朋浩
		(74) 代理人	100117101
			弁理士 西木 信夫
		(72) 発明者	岩田 壮司
			大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式
			会社シマノ内
		(72) 発明者	谷口 一真
			大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式
			会社シマノ内

最終頁に続く

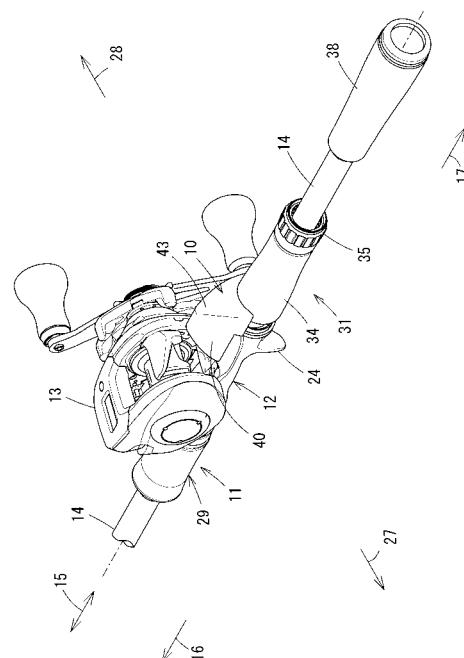
(54) 【発明の名称】 サポートグリップ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ベイトリールが装着された釣竿において、良好なパーミングを実現し、タックルを自在に操作することができるサポートグリップの提供。

【解決手段】 このサポートグリップ 10 は、リールシート 11 にグリップ 31 と共に取り付けられる。グリップ 31 は、リールシート本体 12 にねじ込まれる。サポートグリップ 10 は、リールシート本体 12 に固定される取付リングと、サポートブロックとを有する。取付リングは環状を呈し、リールシート本体 12 に嵌め合わせられ、グリップ 31 によって締結される。サポートブロックは、屋根形に形成された立体である。サポートブロックは、底面と、これに連続する左側面 40、右側面、前面及び後面 43 を有する。これらは、外方に膨らんだ膨出面である。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

釣用リールの脚が載置されるシート面及び当該シート面に載置された釣用リールの脚の一方を収容保持する固定フードが形成されたリールシート本体、並びに当該リールシート本体の軸方向前側に螺合され、上記脚の他方を収容保持し、上記固定フードと協働して上記脚を挟持する可動フードを有するリールシートと、上記リールシート本体の軸方向後側に螺合されたグリップとを備えた釣竿に適用され、

上記グリップにより上記リールシート本体に締結される取付部と、

当該取付部に連結され、釣人の手に当接する膨出面が形成されたサポート部とを有するサポートグリップ。

10

【請求項 2】

上記取付部は、上記リールシート本体の径方向に挿抜自在な半リング状に形成されている請求項 1 に記載のサポートグリップ。

【請求項 3】

上記取付部及びサポート部は、樹脂により一体的に形成されている請求項 1 又は 2 に記載のサポートグリップ。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

この発明は、釣用リールを保持するリールシートに適用されるサポートグリップの構造に関する。

【背景技術】

【0002】

たとえば釣竿にベイトリールが装着される場合、釣人は、リールシートをベイトリールと共に把持し、その状態で釣竿を操作する。この場合、いわゆるパーミングが非常に重要となるが、その一方、ベイトリールの外形形状が複雑であることから良好なパーミングは一般に実現されにくく、タックルの操作が不安定となりやすい。そのため、従来、リールシートに様々な改良が加えられており（たとえば、特許文献 1 及び特許文献 2 参照）、パーミングがサポートされている。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特許第 3 8 6 6 5 0 9 号公報

【特許文献 2】特許第 6 0 0 0 1 0 7 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

40

ところで、良好なパーミングとは、釣人の手がベイトリール及びリールシートの外縁に馴染んで当接すること（握り易いこと）であり、換言すれば、釣人の手のひらと、ベイトリール及びリールシートとの間に余計な隙間が形成されないことである。

【0005】

本発明はかかる背景のもとになされたものであって、その目的は、ベイトリールが装着された釣竿において、良好なパーミングを実現し、タックルを自在に操作することができるサポートグリップを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

(1) 本発明に係るサポートグリップは、釣用リールの脚が載置されるシート面及び当該

50

シート面に載置された釣用リールの脚の一方を収容保持する固定フードが形成されたリールシート本体、並びに当該リールシート本体の軸方向前側に螺合され、上記脚の他方を収容保持し、上記固定フードと協働して上記脚を挟持する可動フードを有するリールシートと、上記リールシート本体の軸方向後側に螺合されたグリップとを備えた釣竿に適用される。このサポートグリップは、上記グリップにより上記リールシート本体に締結される取付部と、当該取付部に連結され、釣人の手に当接する膨出面が形成されたサポート部とを有する。

【0007】

この構成によれば、釣人は、たとえばベイトリールをリールシートに装着し、当該リールシートと共にベイトリールのボディを握り込む。このとき、リールシート本体の後側にグリップによって締結されたサポートグリップが配置されている。リールシート及びベイトリールのボディを握り込んだ釣人の手は、サポートグリップの膨出面に当接する。これにより、いわゆるフルパーミングが簡単に実現される。しかも、サポートグリップは、上記取付部を介してグリップにより締結されているから、着脱が可能である。

10

【0008】

(2) 上記取付部は、上記リールシート本体の径方向に挿抜自在な半リング状に形成されているのが好ましい。

【0009】

この構成では、グリップがリールシート本体に対して少しだけ緩められるだけで、上記取付部が簡単に着脱される。したがって、サポートグリップの交換作業や左右の取替作業が一層簡単になるという利点がある。

20

【0010】

(3) 上記取付部及びサポート部は、樹脂により一体的に形成されているのが好ましい。

【0011】

この構成では、サポートグリップが安価に構成され得る。

【発明の効果】

【0012】

この発明によれば、サポートグリップは、グリップの取り付けと同時にリールシート本体に取り付けられる。サポートグリップに膨出面が形成されているので、釣人がリールシートを握った際に、手が膨出面に当接し、握り易くなる。このサポートグリップは交換も可能であるから、膨出面の形状が異なる複数のサポートグリップが予め用意されることにより、釣人の好みに応じてあるいは手にマッチするサポートグリップが装着され得る。その結果、容易にフルパーミングが実現される。

30

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】図1は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップが装着されたリールシートの斜視図である。

【図2】図2は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップが装着されたリールシートの側面図である。

【図3】図3は、図2におけるIII-III拡大矢視図である。

40

【図4】図4は、図3におけるIV-IV断面図である。

【図5】図5は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップの側面図である。

【図6】図6は、図5におけるVI-矢視図である。

【図7】図7は、図5におけるVII-矢視図である。

【図8】図8は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップの平面図である。

【図9】図9は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップの底面図である。

【図10】図10は、図7におけるX-X断面図である。

【図11】図11は、本発明の一実施形態の変形例に係るサポートグリップが装着されたリールシートの斜視図である。

【図12】図12は、本発明の一実施形態の変形例に係るサポートグリップが装着された

50

リールシートの側面図である。

【図 1 3】図 1 3 は、図 1 2 における XIII-XIII 拡大矢視図である。

【図 1 4】図 1 4 は、他の変形例に係るサポートグリップの側面図である。

【図 1 5】図 1 5 は、図 1 4 における XV-矢視図である。

【図 1 6】図 1 6 は、図 1 4 における XVI-矢視図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、本発明の好ましい実施形態が、適宜図面が参照されながら説明される。なお、本実施の形態は、本発明に係るサポートグリップの一態様にすぎず、本発明の要旨を変更しない範囲で実施態様に変更されてもよいことは言うまでもない。

10

【0015】

<リールシートの構成>

【0016】

図 1 は、本発明の一実施形態に係るサポートグリップ 10 が装着されたリールシート 11 の斜視図である。

【0017】

同図は、リールシート本体 12 にベイトリール 13（特許請求の範囲に記載された「釣用リール」に相当）及びサポートグリップ 10 が装着された状態を示している。

【0018】

リールシート 11 は、既知の構造であって、リールシート本体 12 及び締付ナット 29 を有する。リールシート本体 12 は、全体として筒状を呈し、ポリアミド（PA）、ポリオキシメチレン（POM）のほか、炭素繊維等の繊維により強化された樹脂からなる。釣竿本体を構成するブランク 14 は、リールシート本体 12 の内側に軸方向 15 に沿って嵌め込まれている。ブランク 14 は、リールシート本体 12 に対して既知の手段（たとえば接着剤）により固定される。

20

【0019】

図 2 及び図 4 が示すように、リールシート本体 12 は、前側 16 から後側 17 に向かって順に、締付パイプ部 18（図 4 参照）、リール保持部 19 及びグリップ取付部 30（図 4 参照）を有している。このグリップ取付部 30 にグリップ 31 が設けられる。これらは既知の構造であり、締付パイプ部 18、リール保持部 19 及びグリップ取付部 30 は一体的に形成されている。

30

【0020】

リール保持部 19 の外周面 21（本実施形態では上面：図 4 参照）にシート面 22 が形成されている。ベイトリール 13 の脚 25、26 は、このシート面 22 上に載置されるようになっている。シート面 22 の後側 17 に固定フード 23 が設けられている。固定フード 23 は、リールシート本体 12 と一体的に形成されている。固定フード 23 は、シート面 22 の上方を覆うドーム状に形成されており、ベイトリール 13 の一方の脚 25 が固定フード 23 の内部に挿入され、固定されるようになっている。

【0021】

リール保持部 19 の下面にトリガ 24 が設けられている。このトリガ 24 は、リール保持部 19 に設けられており、下方に突出している。釣人は、安定したキャストを実現するため、パーミングに際して手をトリガ 24 に掛ける。なお、トリガ 24 の外形形状は既知であり、釣人の指が掛かりやすいように成形されている。もっとも、このトリガ 24 は省略されてもよい。リール保持部 19 を貫通したブランク 14 の後端部にエンドグリップ 38 が取り付けられる。エンドグリップ 38 も既知の構造であり、その外周面は、エチレン酢酸ビニル共重合体（EVA）その他の樹脂又はゴムやコルクからなる。

40

【0022】

締付パイプ部 18 の外周面に雄ネジ 20 が形成されている。締付ナット 29 は、既知の構造であって、ナット本体 32 及び可動フード 33 を備えている。ナット本体 32 が上記雄ネジ 20 と螺合する。可動フード 33 は、ナット本体 32 に対して回転自在に設けられ

50

ている。ナット本体 3 2 が上記雄ネジ 2 0 に螺合した状態で、可動フード 3 3 は、ナット本体 3 2 に対して相対的に回転しつつ締付パイプ部 1 8 に対して軸方向 1 5 に沿ってスライドする。つまり、可動フード 3 3 は、固定フード 2 3 に対して接離する。可動フード 3 3 も固定フード 2 3 と同様にドーム状に形成されており、上記シート面 2 2 の上方を覆うことができる。ベイトリール 1 3 の他方の脚 2 6 は、可動フード 3 3 の内部に挿入されるようになっている。

【0023】

グリップ取付部 3 0 の後端部に雄ネジ 3 6 (図 4 参照) が形成されている。グリップ 3 1 は、既知の構造であり、グリップ本体 3 4 及び締結ナット 3 5 を有する。グリップ本体 3 4 は円筒状を呈し、その外周面は、エチレン酢酸ビニル共重合体 (EVA) その他の樹脂又はゴムやコルクからなる。グリップ本体 3 4 は、締結ナット 3 5 に対して回動自在に設けられている。締結ナット 3 5 が上記雄ネジ 3 6 に螺合した状態で、グリップ本体 3 4 は、締結ナット 3 5 に対して相対的に回転しつつ、グリップ取付部 3 0 に対して軸方向 1 5 に沿ってスライドする。つまり、締結ナット 3 5 が操作されることにより、グリップ本体 3 4 がリール保持部 1 9 の後端部 3 7 に締結される。

【0024】

図 4 が示すように、ベイトリール 1 3 の一方の脚 2 5 が固定フード 2 3 に挿入された状態で、ナット本体 3 2 が操作される。これにより、可動フード 3 3 が後側 1 7 にスライドして固定フード 2 3 に近接し、ベイトリール 1 3 の他方の脚 2 6 が可動フード 3 3 内に挿入される。ナット本体 3 2 が締め込まれることにより、上記脚 2 5、2 6 が固定フード 2 3 及び可動フード 3 3 によって挟持され、ベイトリール 1 3 がリールシート本体 1 2 に固定される。

【0025】

＜サポートグリップの構成＞

【0026】

図 5、図 8 及び図 9 は、それぞれ、上記サポートグリップ 1 0 の側面図、平面図及び底面図である。図 6 及び図 7 は、それぞれ、図 5 における VI-矢視図及び VII-矢視図である。図 1 0 は、図 7 における X-X 断面図である。

【0027】

図 1、図 3 及び図 4 が示すように、サポートグリップ 1 0 は、ベイトリール 1 3 と共にリールシート本体 1 2 に装着されるようになっている。本実施形態において、図中矢印 2 7、2 8 は、それぞれ左側及び右側を示し、これらの図が示すように、本実施形態では、サポートグリップ 1 0 は、リールシート本体 1 2 の右側 2 8 の斜め上方に突出するように配置されている (図 3 参照)。

【0028】

図 5～図 1 0 が示すように、サポートグリップ 1 0 は、リールシート本体 1 2 に固定される取付リング 5 1 (特許請求の範囲に記載された「取付部」に相当) と、取付リング 5 1 に設けられたサポートブロック 5 2 (特許請求の範囲に記載された「サポート部」に相当) とを有する。これらは樹脂により一体的に形成されている。もっとも、これらが別部材として構成され、両者が組み付けられてもよい。

【0029】

サポートブロック 5 2 は、たとえばポリアミド (PA)、ポリオキシメチレン (POM) その他の樹脂からなる。サポートブロック 5 2 は、屋根形に形成された立体であり、底面 3 9、左側面 4 0、右側面 4 1、前面 4 2 及び後面 4 3 を有する。左側面 4 0 及び右側面 4 1 は、それぞれ、底面 3 9 の左側縁及び右側縁に連続し、上方に延びている。両者は、図 6 が示すように、互いに均等且つ対称に接近し、頂部 4 4 で連続している。

【0030】

左側面 4 0 及び右側面 4 1 は、同図が示すように外方に膨れた膨出面である。左側面 4 0 及び右側面 4 1 の曲率半径は特に限定されるものではないが、パーミングに際して釣人の手が馴染むように設計される。後面 4 3 は、底面 3 9 の後縁に連続し、上方且つ前側 1

10

20

30

40

50

6に延びている。後面43は、図6が示すように前側16に傾斜しつつ左側面40及び右側面41と連続し、上記頂部44で三者が連続している。後面43も同図が示すように外方に膨れた膨出面である。後面43の曲率半径も特に限定されるものではないが、パーミングに際して釣人の手が馴染むように設計される。

【0031】

図10が示すように、上記底面39は、いわゆる肉抜き加工が施されており、サポートブロック52の軽量化が図られている。

【0032】

取付リング51は、サポートブロック52の底面39に設けられており、サポートブロック52と一体的に形成されている。取付リング51は、同図が示すように円環状を呈する。取付リング51の内径寸法は、リール保持部19の後端部37の外径に対応しており、図4が示すように、リール保持部19の後端部37に軸方向15に沿って嵌め合わせられている。

10

【0033】

本実施形態では、図10が示すように、取付リング51の内周面45に段部46が形成されている。この段部46がリール保持部19の後端部37と係合し、両者が位置決めされるようになっている（図4参照）。もっとも、この段部46は省略されてもよい。また、図5が示すように、取付リング51の外周面47にも段部48が形成されている。図4が示すように、この段部48にグリップ本体34が嵌合するようになっている。これにより、グリップ本体34がサポートグリップ10に位置決めされる。もっとも、この段部48も省略され得る。

20

【0034】

<作用効果>

【0035】

釣人は、たとえばベイトリール13を前述の要領でリールシート本体12に装着すると共に、グリップ31を前述の要領でリールシート本体12のグリップ取付部30にねじ込んで固定する。このとき、予めサポートグリップ10の取付リング51がグリップ取付部30に嵌め合わせられる。つまり、グリップ31がグリップ取付部30に螺合される際に、取付リング51が両者間に挟み込まれ、グリップ31の取り付けと同時にサポートグリップ10も取り付けられる。特に、取付リング51が環状に形成されているから、リールシート本体12に対するサポートブロック52の姿勢を任意に設定することができる。本実施形態では、図1及び図3が示すように、サポートブロック52は、右側28に傾斜した姿勢に設定されている。

30

【0036】

釣人は、リールシート11と共にベイトリール13のボディを握り込む。リールシート本体12の後方にグリップ31によって締結されたサポートグリップ10が配置されているので、リールシート11及びベイトリール13を握り込んだ釣人の手は、サポートブロック52の上記左側面40、右側面41及び後面43に当接する。これらは、前述のような膨出面であるから、釣人の手がサポートブロック52に当接しつつリールシート11及びベイトリール13のボディに馴染むように当接する。これにより、いわゆるフルパーミングが簡単に実現される。

40

【0037】

しかも、サポートグリップ10は、グリップ31によりリールシート本体12に締結されているから、グリップ31の操作によってリールシート本体12に対して着脱、交換も可能である。したがって、上記左側面40、右側面41及び後面43の形状が異なる複数のサポートグリップが予め用意されることにより、釣人の好みに応じてあるいは手にマッチするサポートグリップが装着され得る。

【0038】

<変形例>

【0039】

50

図１１は、本発明の一実施形態の変形例に係るサポートグリップ１０が装着されたリールシート１１の斜視図である。図１２は、当該変形例に係るサポートグリップ１０が装着されたリールシート１１の側面図である。図１３は、図１２におけるXIII-XIII拡大矢視図である。

【００４０】

この変形例では、サポートグリップ１０が左側２７に傾斜した姿勢で使用されている。つまり、上記実施形態では、図３が示すように、サポートブロック５２が右側２８に傾斜し、斜め上方に突出した姿勢であるが、本変形例では、サポートブロック５２が左側２７に傾斜し、斜め上方に突出した姿勢である。前述のように、取付リング５１が環状に形成されているから（図６及び図７参照）、この取付リング５１がリールシート本体１２に対して回転されることにより、簡単にサポートブロック５２の姿勢を変化させることができる。これにより、釣人の好みやロッドを把持する癖に対応して良好なフルパーミングが実現される。また、たとえばベイトリール１３のハンドルの位置が左右に変更された場合等であっても、これに迅速に対応することができるという利点がある。

【００４１】

図１４は、他の変形例に係るサポートグリップの側面図である。図１５は、図１４におけるXV-矢視図である。図１６は、図１４におけるXVI-矢視図である。

【００４２】

この変形例に係るサポートグリップ１０が上記実施形態に係るサポートグリップ１０と異なるところは、取付リング５１が、図１４～図１６が示すような半リング状に形成されている点である。なお、その他の構成については、上記実施形態と同様である。

【００４３】

この変形例では、グリップ３１が操作され、リールシート本体１２に対して少しだけ緩められるだけで、取付リング５１の締結が緩み、リールシート本体１２に対して簡単に着脱される。その結果、サポートグリップ１０の交換作業等が一層簡単になるという利点がある。

【符号の説明】

【００４４】

- １０・・・サポートグリップ
- １１・・・リールシート
- １２・・・リールシート本体
- １３・・・ベイトリール
- １４・・・ブランク
- １５・・・軸方向
- １８・・・締付パイプ部
- １９・・・リール保持部
- ２２・・・シート面
- ２３・・・固定フード
- ２５・・・脚
- ２６・・・脚
- ２９・・・締付ナット
- ３０・・・グリップ取付部
- ３１・・・グリップ
- ３２・・・ナット本体
- ３３・・・可動フード
- ３４・・・グリップ本体
- ３５・・・締結ナット
- ３７・・・後端部
- ３９・・・底面
- ４０・・・左側面

10

20

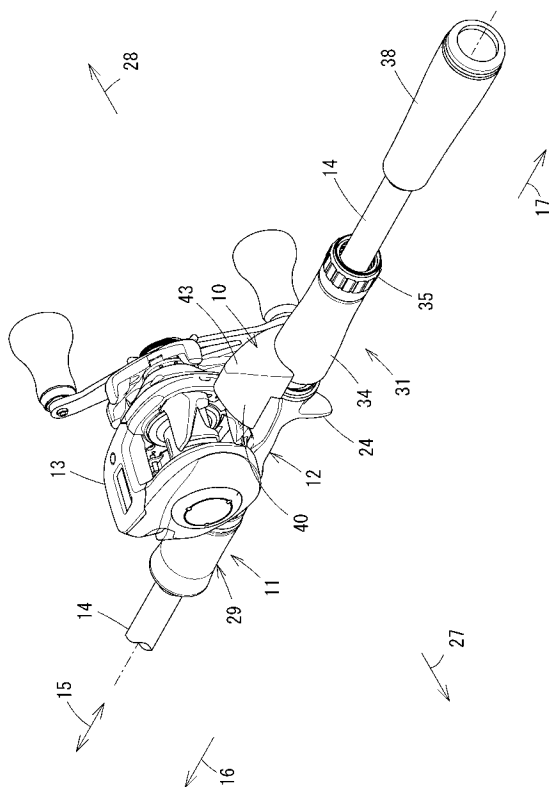
30

40

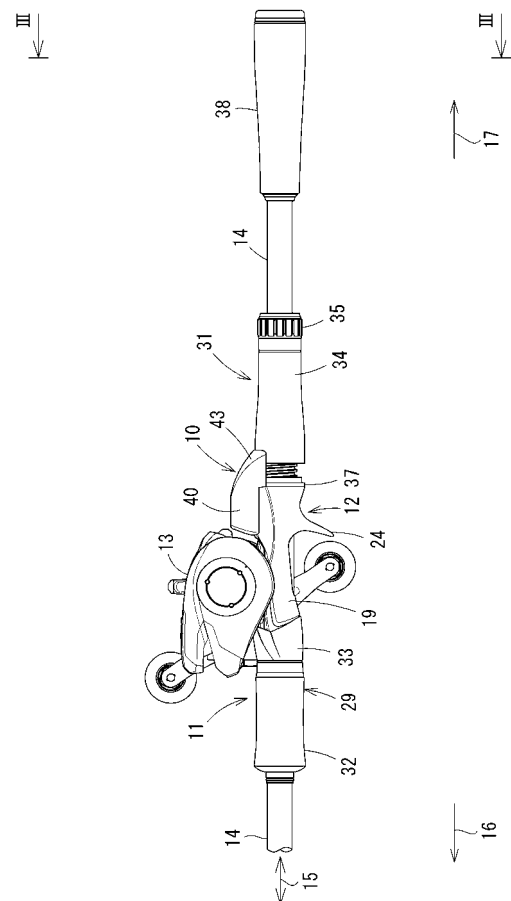
50

- 4 1 . . . 右側面
 4 2 . . . 前面
 4 3 . . . 後面
 5 1 . . . 取付リング
 5 2 . . . サポートブロック

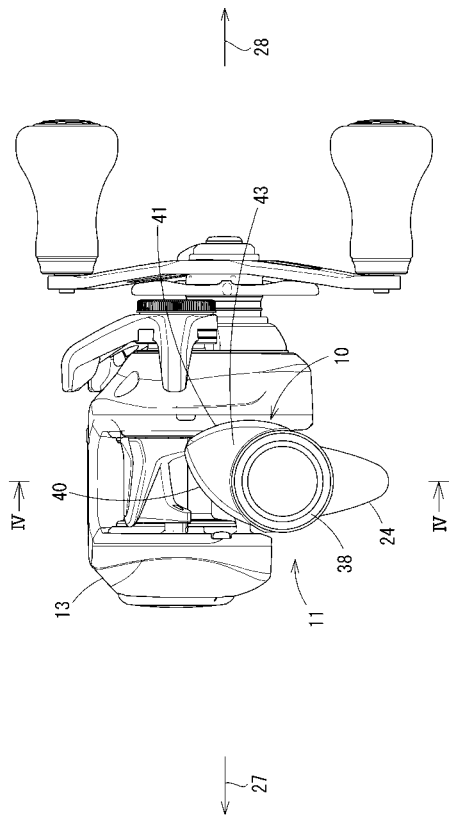
【図 1】



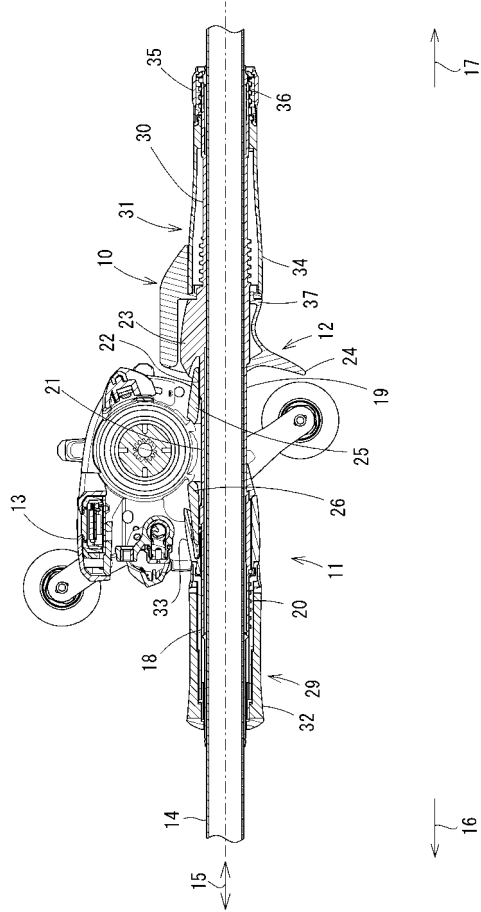
【図 2】



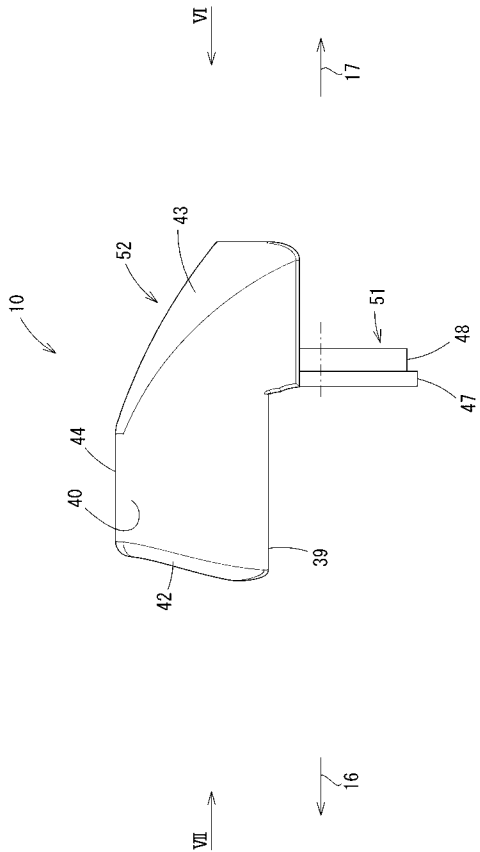
【図 3】



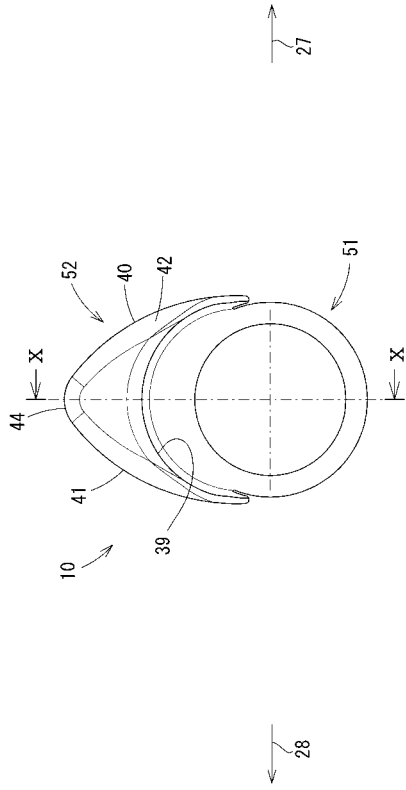
【図 4】



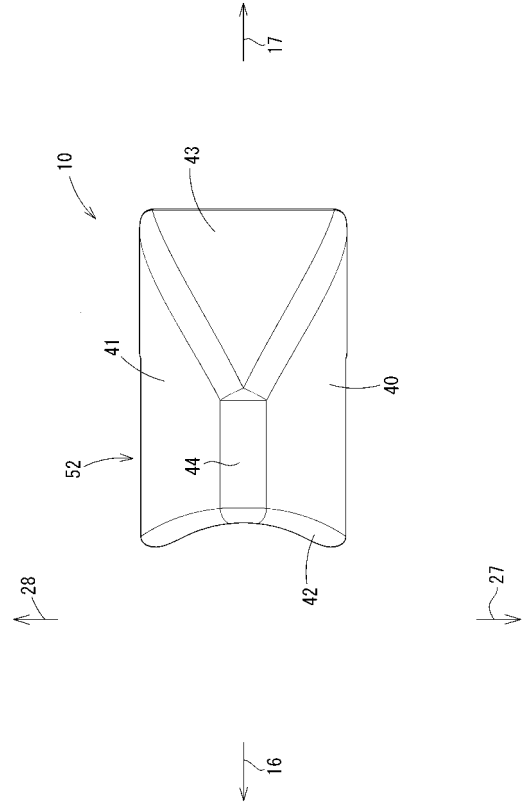
【図 5】



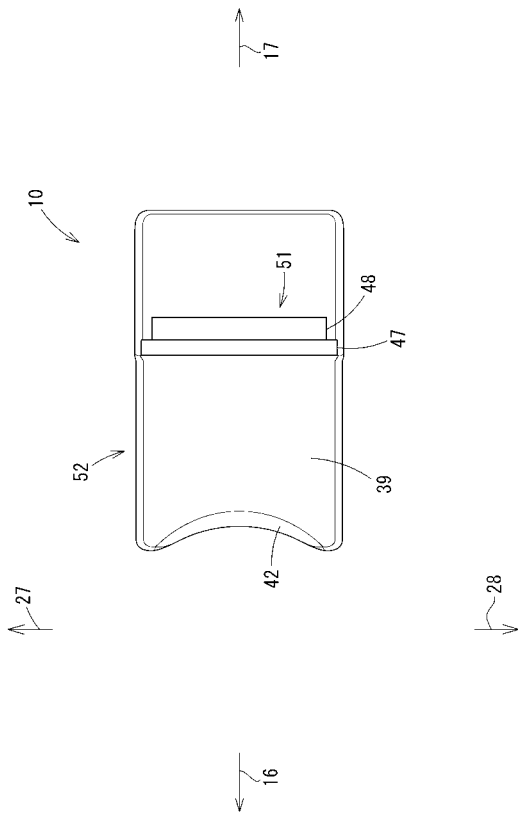
【図 7】



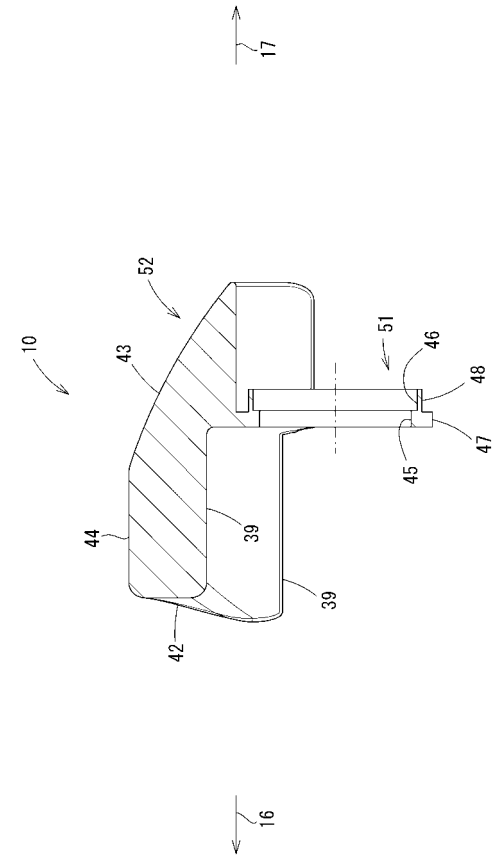
【図 8】



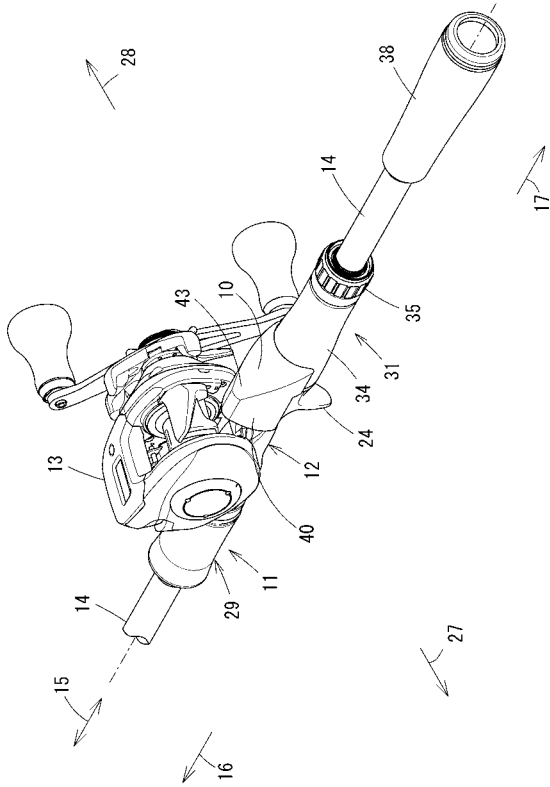
【図 9】



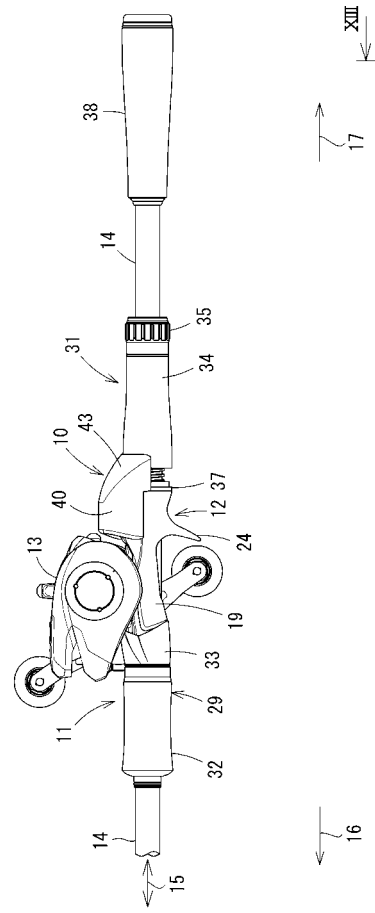
【図 10】



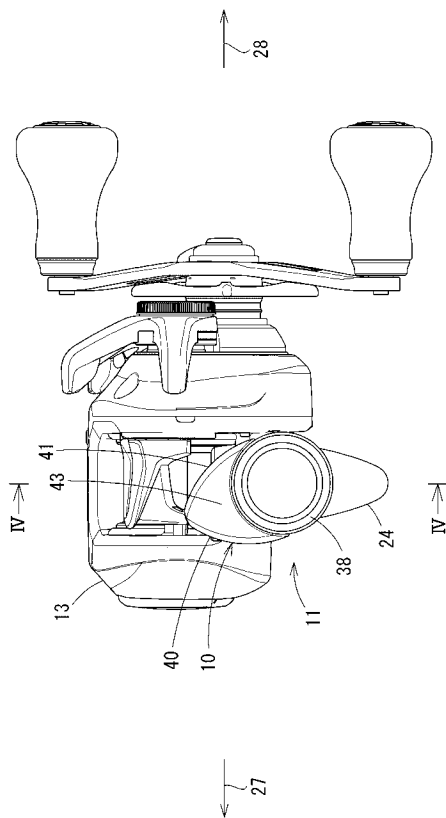
【図 1 1】



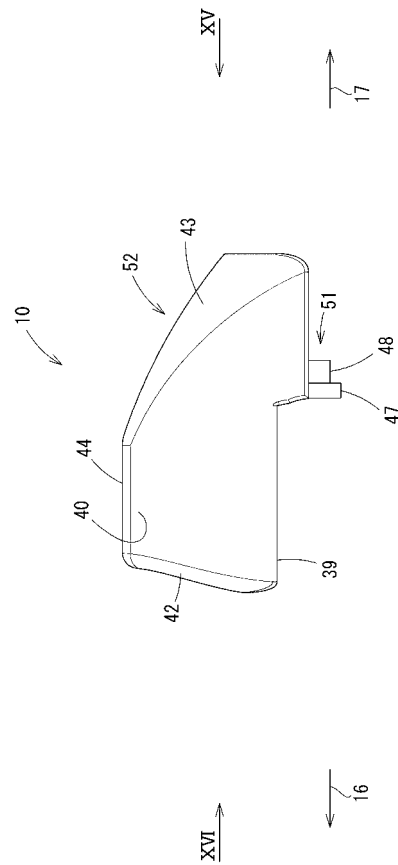
【図 1 2】



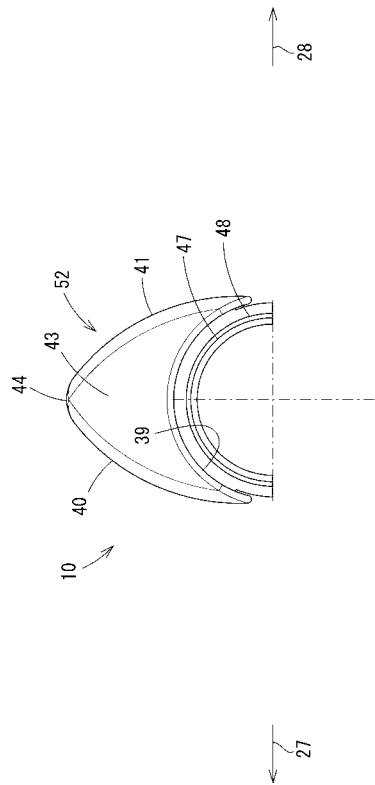
【図 1 3】



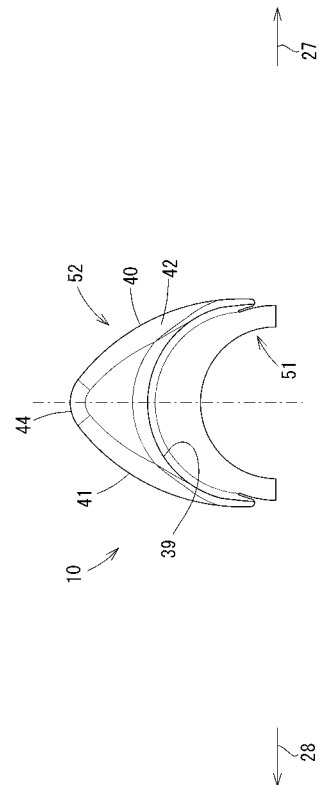
【図 1 4】



【図 15】



【図 16】



フロントページの続き

(72)発明者 山中 貴弘

大阪府堺市堺区老松町 3 丁 7 7 番地 株式会社シマノ内

Fターム(参考) 2B019 AA06 CB10